

「この人 29」

久我正明 62歳 愛媛県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

久 我 二年前に八木会長の、ご講演を伺ってからです。面白い俳句の楽しみ方を学び、これなら自分でもできると、目からうろこでした。

編集部 滑稽俳句の魅力は、何でしょうか。

久 我 「リラックス、リフレッシュ、リビング」です。気分よく、今を楽しむことができますね。作って楽しく、読んで笑えるところです。

編集部 俳句における「滑稽」とは、どのようなものだとお考えになりますか。

久 我 「ゆるみ」です。脳をゆるませて、ゆるく詠む。
頑張っはいけませんね。読んで頬がゆるみ、お腹がゆるむことです。

編集部 滑稽俳句を始められて良かったことは？

久 我 脳細胞が活性化されて、頭が柔らかくなりました。世の中が、ひっくり返ったり反転して見えたりして、楽しくなりました。

編集部 俳句づくりで心がけていらっしゃることは？

久 我 発見と創造です。できるだけ他人が考え付かない、自分だけが発見したことを詠むよう心がけています。下手でも斬新さを出したいと思っています。

編集部 面白いお話、ありがとうございました。

<代表句>

もち肌を烏肌にするかき氷
のどにいる仏喜ぶ生ビール
電線のエレキ演奏木枯らしや
下半身未だ冬眠土筆かな
「がぎぐげご」田んぼに学ぶ活用形